

自分の思いを豊かなことばで 伝え合う子どもたちの育成

～書く活動を通して表現力をはぐくむ授業づくりを目指して～



大宮区 芝川小学校 研究主任 **松井 浩 司**

1 はじめに

本校は、平成21・22年度の2年間、さいたま市教育委員会の研究指定を受け、「自分の思いを豊かなことばで伝え合う子どもたちの育成」を研究主題とし、国語科において「書く活動を通して表現力をはぐくむ授業づくりを目指して」を副題として研究に取り組んできた。

2 研究の概要

(1) 主題設定の理由

新学習指導要領では、思考力・判断力・表現力等をはぐくむための「言語活動の充実」が挙げられている。国語科においては、知的活動、コミュニケーション、感性・情緒の基盤といった言語の果たす役割を踏まえて、的確に理解し論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して伝え合う能力を育成していくことが重要である。

本校の児童の課題として、児童は積極的に自分の思いや考えを出しているが、相手意識・目的意識が明確でないために、自分が話すことに精一杯で、友だちの話を本気で聞こうとしない傾向がある。そのため、相手を尊重し、相手の話を正確に受けとめながら自分の考えを深め、それを相手に伝える態度や能力が十分には育っていない。

以上のことから、本主題を設定した。

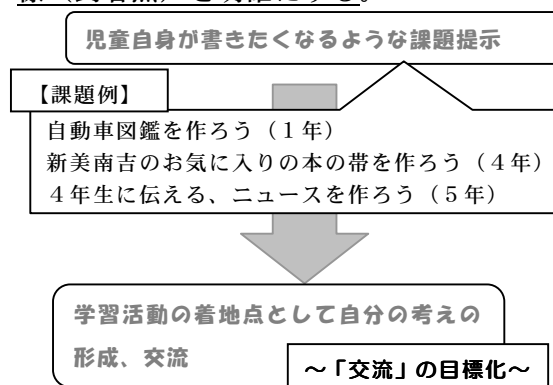
(2) 研究の視点

- 《視点1》 児童の主体的な学びの工夫
- 《視点2》 伝え合う活動の充実のための工夫
- 《視点3》 語彙を豊かにする日常活動の工夫
- 《視点4》 語彙を豊かにする環境構成の工夫

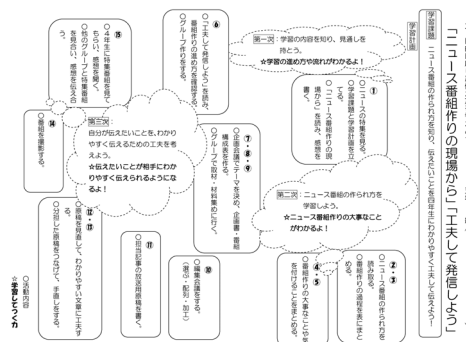
3 研究の内容

(1) 児童の主体的な学びの工夫

- ① 単元を貫く言語活動を位置づけ、学習の目標（到着点）を明確にする。



- ② 学習計画表を作り、学習活動やつける力を明確にして意欲を高められるようにする。



どんな学習活動を行い、どんな力をつけていくのか、見通しをもち取り組むことができるようにする。

(2) 伝え合う活動の充実のための工夫

- ① サイドライン、ワークシート、動作化、挿絵の活用などにより、根拠を明らかにしながら自分の考えを表現することができるようにする。



イメージマップの活用

関連する言葉をたくさん集めることができるようにする。



ICTの活用

挿絵を用いて登場人物の気持ちを想像することができるようにする。

- ② ペア、グループで伝え合う場を設定し、多様な考えを交流することで、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。

自分の考えの発表だけでなく、それぞれの考えに対してのアドバイスを取り入れることで自分の考えを深めたり、表現の幅を広げられたりする。



- ③ 学習計画表をもとに、1時間を振り返る活動（自己評価・相互評価）を行う。

伝え合う活動を行うことで、意見や考えを適切に伝えることができたか、正確に受け取ることができたか確認することができ、さらには、互いのよさや違いを認め合いながら視点を生かして自己評価をすることができる。ワークシートを活用したふり回りカード等で子どもの興味・関心、達成度などをチェックしていく。

(3) 語彙を豊かにする日常活動の工夫

- ① 言語モデルの活用
ブロックごとに言語モデルを作成し、授業や家庭学習など日常生活において、いつでもどこでも使えるようにした。
- ② 辞書の活用
日常的に辞書に触れさせ、調べた言葉にふせんを付けて調べる意欲をもたせるようにした。
- ③ 読書タイム
- ④ N I E 活動

(4) 語彙を豊かにする環境構成の工夫

- ① 教室掲示
② 言葉の広場
学年ごとに掲示板を設け、実態に応じて詩、漢字、短歌・俳句などを掲示した。
- ③ お勧めの本コーナー

4 成果と課題

- 言語活動を明確にすることで、単元全体を通じて児童の主体的な学習が展開できた。
- 根拠になることばを明らかにするためにサイドラインを引くことや、デジタル教科書の効果的な活用を図る等、有効な手立てをいくつも確認することができた。
- 自分の考えや相手の考えを互いに伝え合う活動が、互いのよさや間違い、新しい考え方を見付けることにより効果的であった。
- 書くことに対して個人差がまだまだ見られる傾向にあるので、書くことの基礎・基本をさらに精選させ、子どもが「分かった」「楽しい」と思うような個に応じた指導方法の研究をすすめていく必要がある。

5 おわりに

本研究の成果と課題をもとに、平成23年度より理数教育の充実に向け算数科においてさらなる研究に取り組んでいるところである。